福岡市立児童心理治療施設概要

I 児童心理治療施設とは

被虐待体験や発達障がい等の二次障がいが原因で、不登校、引きこもり、多動などの行動上の問題を持った児童を入所、通所により、心理治療や生活指導、教育支援等を行い、社会性の回復と家庭復帰を目的とする施設。（児童福祉法第43条の2に規定する児童福祉施設。）

II 施設設置の背景

福岡市の現状と課題

- ①市外施設では、遠方のため、家族の支援・連携や通所支援、退所後のケアが困難である。
- ②やむを得ず、児童養護施設や里親等で養育している場合は、専門的な対応が困難である。

III 本市が目指す施設像

入所・通所する児童が適切な心理治療等を受けることができ、1日でも早く家庭等に復帰できる施設を目指す。

1 親子関係再構築支援等による保護者への支援や通所機能の効果的な活用

- ①児童の支援はもとより、児童が家庭等に復帰できる環境を作ることが必要であり、そのためにも保護者に対し、親子関係再構築等の支援を行う。
- ②通所機能については、施設退所後に通所措置に切り替え、きめ細かなアフターケアを行う。また、入所には至らないが、心理治療が必要な児童に対しても、通所機能を活用し支援を行う。

2 児童相談所等との関係機関との緊密な連携

- ①入所、通所措置を行う児童相談所と情報共有し、特に緊密に連携してきめ細かなケースワークとアセスメントを行う。
- ②入所児童は1日の多くを教室で過ごすため、教育面について、発達教育センター等と緊密な連携を行う。

3 家庭に近い養育環境でのケア

- ①入所する児童が、できる限り家庭的な養育環境で生活できるよう、居室やリビング、浴室、トイレ等を備えたユニット制できめ細かなケアを行う。

IV 施設設置場所

児童心理治療施設は、えがお館内の1, 2, 3階（一時保護所）の一部を改修工事し、設置する。改修工事は、令和元年7月～令和2年3月で行い、令和2年4月1日開設予定。

V 施設内容

1 施設規模等

【定員】 入所 20人 通所 15人	【養育形態】 ユニット制（5人×4ユニット）
【諸室】 居室、医務室、静養室、遊戯室、観察室、心理検査室、相談室、工作室、調理室、浴室、便所（福岡市児童福祉施設の設備及び運営の基準を定める条例第89条）施設内学級、心理療法室、事務室、会議室等	
【面積】 約2,217㎡	
【職員数】 37人程度 ※国基準 （医師、心理療法担当職員、児童指導員/保育士、看護師、個別対応職員、家庭支援専門相談員、栄養士及び調理員等）	

- ※施設内に施設内学級（自閉症・情緒障がい特別支援学級）を設置する。
- ※児童の活動場所を確保するため、福岡中央特別支援学校のグラウンドやえがお館内の体育室等を施設所管課と調整を行い利用する。
- ※一時保護の地域分散化を進めるため、施設内に本体施設とは別の定員（5人）の一時保護委託児童専用のユニットを設置する。

2 施設配置

下記【えがお館改修概略図】のとおり、1階に施設内学級、2階に一時保護所、児童心理治療施設の事務室、心理検査室などの管理部、3階に児童心理治療施設の居住部を配置する。
なお、2階の一時保護所と児童心理治療施設については、別の施設となるため児童が行き来できないように壁や扉で仕切る。

【えがお館改修概略図】

	<現状>	<改修後>
7階	視聴覚室・研修室等	視聴覚室・研修室等
6階	面接室・心理室等	面接室・心理室等
5階	事務室・相談室・体育室等	事務室・相談室・体育室等
4階	はまかぜ学級	はまかぜ学級
3階	一時保護所	児童心理治療施設（居住部）
2階	一時保護所	一時保護所 児童心理治療施設（管理部）
1階	エントランス等 一時保護所学習室	エントランス等 施設内学級

※一時保護所については、引き続き本市が児童相談所付設の一時保護所として直営で運営する。